

技師の読影補助について

～胃がん検診～

愛媛県厚生連健診センター

○ 梶原 篤 吉原 大智 津田 昭洋 藤原 政純 玉井 貴基
島津 成章 山内 喜志男 佐藤 哲也 木村 浩之 堀江 民三良

1. 目的

今回我々は、対策型検診にて発見された胃がん症例を見直すことで、技師がどの程度追加撮影を行い、病変を指摘できたか検討を行ったので報告する。

2. 検討対象及び方法

① 検討対象

平成 25 年度～平成 26 年度（2 年間）

| | | |
|------------|--------|---------|
| 受診者数 | 45,603 | |
| 要精検者数 (%) | 4,519 | (9.9%) |
| 精検受診者数 (%) | 3,621 | (80.1%) |
| がん発見者数 (%) | 69 | (0.15%) |

② 検討方法

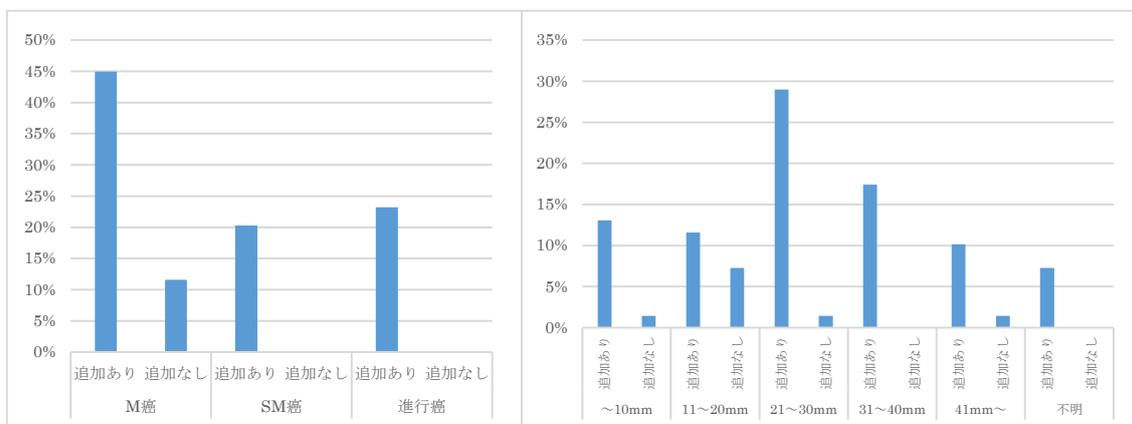
技師の追加撮影の有無及び病変の指摘を深達度・大きさの 2 項目について検討した。

3. 発見胃癌症例の詳細

| | 早期癌 | | 進行癌 | | | 不明 | 合計 |
|-----|-----|----|-----|----|---|----|----|
| | M | SM | MP | SS | S | | |
| H25 | 19 | 7 | 2 | 2 | 3 | 2 | 35 |
| H26 | 20 | 7 | 1 | 2 | 2 | 2 | 34 |
| 合計 | 39 | 14 | 3 | 4 | 5 | 4 | 69 |

4. 結果

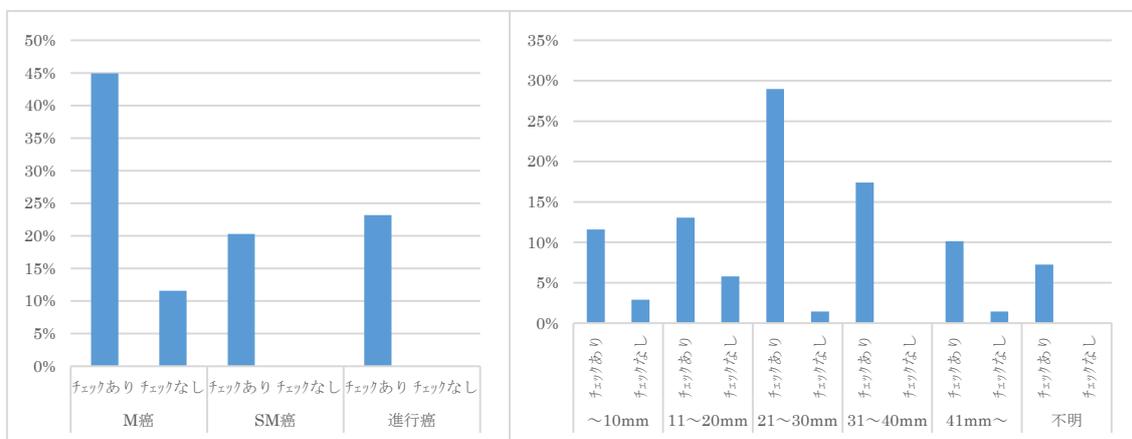
① 追加撮影の有無について（深達度・大きさ）



深達度別にみると、M 癌について追加撮影ありが 44.3%で、追加撮影なしが 11.4%であった。SM 癌・進行癌は、すべて追加撮影がされていた。

大きさでは、10mm 以下について追加撮影ありが、13.0%で、追加撮影なしが 1.4%，11～20mm のもので追加撮影ありが 11.6%で、追加撮影なしが 7.2%，21～30mm で追加撮影ありが、29.0%で、追加撮影なしが 1.4%，41mm 以上で追加撮影ありが、10.1%で、追加撮影なしが 1.4%であった。

② 技師チェックの有無について（深達度・大きさ）



深達度別は、追加撮影の時と同様の傾向を示しているが、大きさについては、追加撮影と比較して、20mm 以下の病変で若干の違いが見られた。

5. 結語

当センターにおける読影補助の取り組みについて述べたが、深達度が深く、病変が大きくなるにつれ、追加撮影及び技師チェックがされている結果となった。

ルーチンでは発見されないような病変を見つけるためには、技師が気づいた些細なことでも、追加撮影することでより発見率に貢献できると考える。